

## 更木小学校区適正配置地域協議会に関する概要

更木小学校区適正配置検討地域協議会における更木小学校の適正配置に関する協議は、令和 7 年 3 月の協議会設立から全 6 回にわたる協議を経て、「二子小学校との統合を第一に検討すべき」という最終結論に至り、令和 8 年 1 月に結果を提出された。

現在 27 名の児童数は、令和 12 年度には 13 名まで減少する見込みであり、複式学級による教育的デメリット（集団学習の制限、人間関係の固定化など）の解消が必要と考えてのこと。全住民および全児童を対象としたアンケート調査では、住民の約 66%、保護者の約 69%、児童の約 59%が統合に対して肯定的な回答を示しており、当事者の意向も反映された。

協議会は市に対し、統合にあたっての条件として「スクールバスの導入」「通学路（昭和橋）の安全確保」「小中一貫校の検討」など 12 項目の要望を提示している。

### 1. アンケート調査の結果概要

令和 7 年 10 月に、全住民（中学生以上）および全児童（小学生）を対象に実施されたアンケート結果は以下の通りである。

#### 1.1 中学生以上の住民（回答数：630 件、回収率：78.0%）

住民の大多数が児童減少の現実を認識しており、統合を「現実的な選択」と捉えている。

項目	内容
児童減少の認知度	86.1%が「今後も減少することを知っていた」と回答。
今後のあり方	「他校と統合」を選択した割合が全体で <b>64.8%</b> 、現学校維持は <b>14.6%</b> 。
属性別の統合支持	保護者：約 69%、地域住民：約 66%、中学生：約 59%。
統合を望む理由	競争による教育環境向上、多人数による活動の幅の広がり。
主な懸念事項	通学手段・距離（スクールバス）、地域衰退、子どもへのストレス。

#### 1.2 小学生（全児童 27 名、回答率 100%）

現在の少人数環境に満足しつつも、より多くの友人との交流を期待する傾向が見られる。

- **現状評価:** ほとんどの児童が今の学校に満足。学年を超えた交流（遊び）が活発。
- **統合への意向:** 約 59%が肯定的（「とてもいい」「いい」）。「友だちが増える」「もっと楽しくなる」といった期待が高い。
- **否定的な意見:** 「人が多すぎるとうるさい」「混雑する」「今のままがいい（4 件）」

### 2. 協議会の考え方と最終提言

協議会は、アンケート結果に示された住民・保護者・児童の意向を尊重し、「他校との統合を進めることが、子どもの教育的メリットを最大化する最善の策である」と判断した。

#### 2.1 統合に関する主要な要望事項（全 12 項目から抜粋）

統合を教育環境の「改善」とするため、以下の具体的要望が盛り込まれた。

1. **統合先の優先順位:** 同じ中学校区である二子小学校を第一候補とし、同校の老朽化を踏まえた校舎建て替えを検討すること。
2. **小中一貫校の検討:** 二子小学校および北上北中学校を含めた、小中一貫校導入の可能性を検討すること。

3. **通学の安全確保:**

- 通学時間は 30 分を目安とし、スクールバスを積極的に導入すること。
- 特に**昭和橋は歩道がなく危険**であるため、スクールバス利用を前提とすること。

4. **教育環境の維持:** 統合までの期間、教員配置（特別加配）などの配慮を行うこと。

5. **地域コミュニティの継続:** 統合後も更木地区の地域学習やコミュニティスクールの取り組みを維持し、閉校後の施設活用について地区と協議すること。

6. **令和 8 年度中:** 統合内容（時期・手法等）の決定を目指す。

7. **早期協議:** 統合相手校の関係者や住民を含めた「統合準備委員会」を早期に設置し、具体的な条件（校名、校歌、運動着等）を協議する。